

日本アトマイズ
工 加

倉庫棟、来年1月完成

つくば工場一貫生産体制へ

日本精鉱子会社の日本アトマイズ加工(本社)千葉県野田市、木嶋正憲社長は、2016年1月中旬にもつくば工場(茨城県牛久市)の倉庫棟が完成する。検査・梱包・倉庫などの下工程を行う設備で、16年4月ごろをめどに溶解から梱包までをカバーした一貫生産体制を整え、早期の品質認

証取得を目指す。さらなる業務効率の向上と品質管理徹底を図る。電子部品や粉末冶金向けの金属粉を製造する同社は、つくば工場の本格稼働が寄与し、15年上期(4-9月期)は上期としては過去最高の売上高・利益を記録した。スマートフォンに使われる積層セラミックコンデンサー

(MLCC)の電極向け微細銅粉など電子部品向けが好調だった。前年同期からの反動減を予測していた軸受など自動車部品向けの冶金粉末も堅調だった。足元では中国経済の鈍化の影響を受け、輸出向けなどでやや販売が落ちている。「金属粉は近年右肩上がりできていた。下期は横ばい

かやや落ちるかもしれない」(木嶋社長)。ただ、為替の円安の継続で一部のユーザーには国内回帰の動きも見られるという。つくば工場は足元でも月間溶解量約50トと、現体制でのフル生産体制が続く。現在は溶解・脱水乾燥・分級などの製造工程までを行い、下工程は本社工場

で行っている。倉庫棟の完成によって一貫生産体制が整う。電子部品向けはユーザーの品質認証が厳しく、実際に一貫で量産出荷する1年くらいかかるだろ

う(木嶋社長)。また、来年度の新たな取り組みとして、近年注目が集まる3Dプリンター向けの次世代金属粉の開発も検討している。